

# 祝 ノーベル医学・生理学賞受賞 大隅良典先生



平成28年(2016年)10月3日、今年度のノーベル医学・生理学賞に教養学部基礎科学科(現在は統合自然科学科に改組)、大学院理学系研究科相関理化学専攻(同専攻の場所は駒場)ご出身の大隅良典先生(現在東京工業大学栄誉教授)が選出されました。

おめでとうございます。

大隅先生は、本学大学院を修了されたのち、米国ロックフェラー大学に留学され、帰国後は理学部の安楽泰宏教授研究室で講師として酵母の「液胞」をご研究されました。昭和63年(1988年)、教養学部の助教授として独立した研究室をスタートされ、駒場の大学院生とともにオートファジー(※1)の研究を始められました。ノーベル賞受賞理由として引用されている4報の重要論文のうちの2報(※2)は、本学教養学部生物学教室(現在は生物部会)での研究業績です。

大隅先生の「人がやらないことをやる」「基礎研究を大事にする」「いろいろな分野を学んでいく」「一つの興味を突き詰めていく」という姿勢は、教養学部基礎科学科や現在の統合自然科学科にも貫かれている理念であり、東京大学教養学部の教育がほぼ半世紀を経て、素晴らしいご研究に結実したことを私たちは誇りに思います。

今後の先生のさらなるご活躍をお祈りしております。

東京大学大学院総合文化研究科長・教養学部長  
小川 桂一郎

(※1)オートファジー:生物が自らの作り上げているタンパク質を分解して再利用する体の「リサイクル工場」のような仕組み。これが上手くはたらかないと、アルツハイマー病やパーキンソン病、糖尿病などの疾患になると考えられています。

(※2)ノーベル賞受賞理由として引用されている4報の重要論文のうちの2報

Takehige, K., Baba, M., Tsuboi, S., Noda, T. and Ohsumi, Y. (1992). Autophagy in yeast demonstrated with proteinase-deficient mutants and conditions for its induction. *Journal of Cell Biology*, 119, 301-311

Tsukada, M. and Ohsumi, Y. (1993). Isolation and characterization of autophagy-defective mutants of *Saccharomyces cerevisiae*. *FEBS Letters*, 333, 169-174